



チャレンジと多様性

株式会社サーラコーポレーション
代表取締役社長 神野 吾郎

私は、1987年の秋から1990年の夏までの3年間、ニューヨークで銀行員として仕事をしていました。私のチームは、アングロサクソン系の白人女性、チャイナタウンに住む中国女性、スタテンアイランドに住むイタリア女性の4人でした。メンバー同士はプライベートにまったく立ち入りませんが、オフィスではお互いの立場を程よく考慮しながら、楽しく、そして厳しく仕事をしていました。ニューヨークのすごいところは、人種のるつぼを社会活力に繋げる知恵があるところです。自分の自由と、その裏返しの自立・自己責任、そして周りの人との程よい間合いによって最高の結果を生み出すのです。3年間の勤務で慣れたころ、多様性を素直に受け止める自分が形成されたと感じています。

また、当時のニューヨークは不況のどん底にあつて、会社が潰れたり、リストラで職を失った人が何人もいましたが、個人の自由、独立、尊厳を守るためにがんばっていました。知人の勤めている会社が潰れて、行方が分からなくなり心配していると、突然「神野、元気か！ここで仕事を始めたから、また、よろしくな！」と、つらい過去には触れずに明るく電話がかかってくるのが何度もありました。「仕事は人生における一部分であり、良い時もあれば悪い時もあるさ。人間の価値はそれだけではない。だけど自分自身に誇りを持つために、自由と独立を自分で勝ち取らなければならない。」という、アメリカ社会全体が持つ厳しさ、強さ、明るさがひしひしと伝わり、自分自身のひ弱さ、自分が過ごしてきた社会の甘さを痛感しました。不況のどん底にあつても、不合理な現実にも耐えながらも背筋をピッと伸ばしてチャレンジし続ける強さと明るさがありました。

現在の日本の超成熟化社会においては、このような多様性を受け入れる力、チャレンジする力、自分自身の信念に基づき堪える力が求められています。国籍、人種、年齢、性別、指向、価値観などが異なる人が共に働くこと、地域、産業、分野の「界」を越えて連携すること、新しいものにチャレンジする姿勢を持ち続けることで、全く新しい次元の価値が生まれると考えています。

そのためには、私たち中部経済連合会も、可能性に向けてチャレンジする力、多様性を吸収できるような包容力を持たなければなりません。さらに、社会構造や組織をデザインし直し、会員だけでなく、ベンチャーや若者、留学生などが、自然に交わるような社会の実現へリーダーシップを発揮することも必要だと思います。

会員の皆さまとともに、新しい価値を生み出し、新しい世代の成長産業を創出する中部圏を実現するため全力を尽くしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。